

WEB調査「食品パッケージで感じる事」**意見箱**

食品や飲料、菓子などの商品はお店で「デザイン」や「表示」を確認し、購入した後パッケージを「開封」し、中身を取り出してからものによっては「再封」して「保管」します。また最終的にはゴミやりサイクルに。その各プロセス毎での生活者が感じる不満やご意見を「自由回答」でいただきました。～代表的なものを抜粋しています～

(調査対象者 2,845 名のうち 1,308 名の方から「自由回答でのご意見」が寄せられました。)

表示について

子供にもわかりやすい表示が増えるといい。子供に分かるなら、外国人の人もお年寄りも分かるだろうから。表示が細かすぎて年配者には読めない。食品を買いに行く時は老眼鏡を持っていかない人の方が多いと思う。子供が一人でも調理できる食材には、絵文字+文字表記での注意書きが必要だと思う。高齢の母がよく冷食の調理方法を間違えている。表示に文字も添えて、なおかつ大きく記載してほしい。蓋をしたままレンジするもので、開封時にやけどする事があるのですが、注意表示が分かりやすいといいですね。お菓子のカロリーが100gあたりで書かれていると分かりにくい。1個とか1袋あたりで書いてあるといい。賞味期限の記載場所が分かりにくい場合がある。場所を統一するか、表示を大きめにしてほしい。中国産冷凍餃子の事件もあったので、安心して口にできるように、原産国等しっかり表示してほしい。もっともっとアレルギー表示をきっちりして欲しいです。食べて蕁麻疹や湿疹ができるのは辛いです‥。アレルギー表示は原材料の中に埋もれさせないで、別途記載すべきと思います。

開封について

お菓子の袋など小さな子供の力でも簡単にあくよう作って欲しいです。コンビニのおにぎりのパッケージの開け方は統一されていたほうがいいと思う。お年寄りが困っているのをよく見るから。どこからでも開けられますと書かれているのに、どこからも切れなかったときすごく腹が立つ。袋菓子は縦に開けられるように切込みがありますが、縦に切ると保存しにくいので横に切るようにしてほしいです。味・価格などに満足でも、パッケージが開けにくい商品は次から買わない。そのへんの気配りも行き届いてないとダメ。

再封について

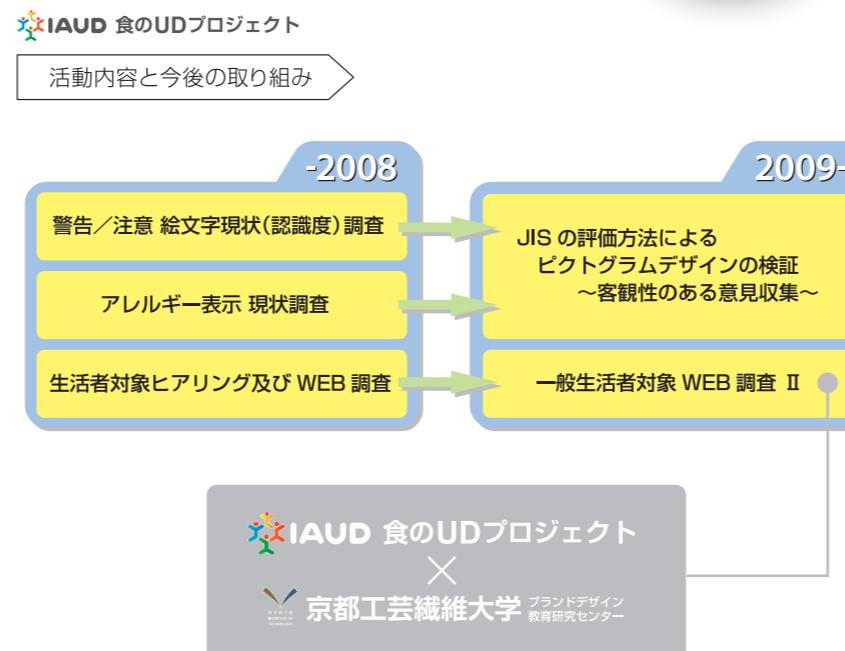
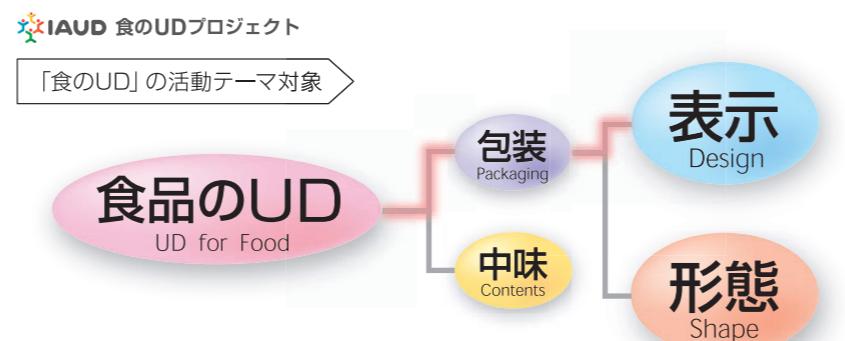
袋菓子などは、一度手をつけるとその後の保存が面倒。カップめんのふたは蓋がきちんとしまったら便利だと思う。ジッパーの付いてる袋でたまにちゃんと閉まらないものがある。

廃棄について

捨てるときの分別に迷うような容器は困る。過剰包装になってる物が多いのでもう少し簡単にして欲しい。ガラス瓶についたプラキャップを取るのに非常に苦労しています。怪我しそうなので、分別せずに捨てています。自治体によってゴミを出す際、パッケージがいろいろで分別が煩雑で困るときがある。……

食のUDプロジェクト

私たちの生活にとても身近な「食品」。食のUDプロジェクトでは、なるべく多くの人が使いやすいと感じる「食品パッケージ開発」へのアプローチを行います。



SUNTORY Calbee Nestle pro-cube 株式会社乃村工藝社 DNP

2009年2月現在



国際ユニヴァーサルデザイン協議会
International Association for Universal Design

ユニヴァーサルデザインのさらなる普及と実現を通じて、日本経済を活性化させるために2003年11月に発足。日本の企業、約150社が参加し活動しています。そこでは参加企業、メンバーの方々が各プロジェクトに分かれて研究活動を行い、業界を横断した取り組みを進めています。

食品パッケージに関する WEB調査レポート

「パッケージの使い勝手」生活者調査

食のUDプロジェクト

IAUD 国際ユニヴァーサルデザイン協議会
International Association for Universal Design

食品パッケージに関するWEB調査

「パッケージの使い勝手」の生活者調査

スーパーやコンビニ等の店頭で何気なく手に取るパッケージ。商品は店頭で購入した後、外出先や自宅で消費され、時には保管されて、その後はリサイクルやゴミ箱へ…。毎日のようにパッケージを手にする私たちはその利便性と同時に、パッケージの使いづらさや表示の読みにくさも感じています。そこで今回 2,845 名の方に協力いただき、生活者の方々が身近に感じている「パッケージ」に対する不満や要望を集約すべく、WEB を使った調査を実施いたしました。パッケージは日常的なものであるからこそ、ちょっとした工夫や配慮がとても重要です。より多くの人が快適になる事を目的とするユニヴァーサルデザイン。私たちは今回の調査結果を読み解き、使い勝手の良いパッケージのためのヒントを見つけていきます。

国際ユニヴァーサルデザイン協議会
研究開発企画部会「食の UD プロジェクト」

協力 京都工芸繊維大学ブランドデザイン教育研究センター 久保雅義教授

モニター属性 (2,845 名)

